

平成27年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月3日

上場取引所 東

上場会社名 アクモス株式会社
 コード番号 6888 URL <http://www.acmos.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画室長
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 飯島 秀幸
 (氏名) 中川 智章

TEL 03-5217-3121

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年6月期第2四半期の連結業績(平成26年7月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年6月期第2四半期	1,466	0.9	△145	—	△142	—	△172	—
26年6月期第2四半期	1,452	22.7	△103	—	△101	—	△98	—

(注) 包括利益 27年6月期第2四半期 △171百万円 (—%) 26年6月期第2四半期 △101百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年6月期第2四半期	△17.76	—
26年6月期第2四半期	△10.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年6月期第2四半期	2,440	1,325	53.1
26年6月期	2,503	1,506	58.9

(参考) 自己資本 27年6月期第2四半期 1,296百万円 26年6月期 1,475百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年6月期	—	0.00	—	1.00	1.00
27年6月期	—	0.00	—	—	—
27年6月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年6月期の連結業績予想(平成26年7月1日～平成27年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,000	11.8	△35	—	△30	—	△100	—	△10.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年6月期2Q	10,215,400 株	26年6月期	10,215,400 株
② 期末自己株式数	27年6月期2Q	515,900 株	26年6月期	515,900 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年6月期2Q	9,699,500 株	26年6月期2Q	9,699,500 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年7月1日至平成26年12月31日、以下「当第2四半期」という。)における我が国経済は、企業収益や雇用情勢の改善がみられたものの、個人消費の低迷や急速な円安の進行による輸入価格の上昇、新興国経済の成長鈍化などのマイナス要因もあり、不安定な状況が続いております。

当社グループの情報技術事業においては、IT投資の回復に伴いシステムの再構築や統合、クラウドへの移行等の需要が増加しているものの、案件増に対応する技術者の確保が困難で、採用環境が厳しさを増しております。

このような状況の下、当社グループでは前期から開始した3ヵ年の中期経営計画の2年度目として、前期の年度テーマ「再生」に基づき取り組みを始めた施策を引き続き実行するとともに、当期の年度テーマである「成長」を目指す基本方針の下、グループ各社が連携し積極的な戦略展開を行なってまいりました。

当第2四半期の売上高は前第2四半期連結累計期間(自平成25年7月1日至平成25年12月31日、以下「前第2四半期」という。)に比べ13百万円増加し1,466百万円(前第2四半期の売上高は1,452百万円、前年同四半期比0.9%増)となりましたが、ACMOSソーシングサービス株式会社を除くグループ各社で営業損失を計上したことなどから前年同四半期に対して損失は増加し、営業損失145百万円(前第2四半期は営業損失103百万円)、経常損失142百万円(前第2四半期は経常損失101百万円)となっております。また、当社において当期業績の見直しを行ったことに伴い繰延税金資産を12百万円取り崩したことから四半期純損失172百万円(前第2四半期は四半期純損失98百万円)となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりです。

(ITソリューション事業)

当第2四半期では、当期の年度テーマである「成長」を目指し、成長分野のクラウド構築やタブレット開発等の技術レベル向上のため、社員の研修や社内勉強会を実施してまいりました。当社の事業所がある首都圏及び茨城地区では顧客の需要に対応した技術者の確保が難しくなっていることから、受注案件拡大のため社員の技術レベル向上を図るとともに、採用活動の強化と、協力会社の開拓を進めております。

当社では先端技術分野での提案型営業展開を行っているソリューション統括センターに当期より首都圏センターを新設し、茨城地区で展開していた成長分野のサービスを首都圏においても本格的に営業展開する体制を整えました。クラウド構築サービス、Java/Android開発及び消防指令システムSYMPROBUS Fシリーズの技術を活用したソリューション提案を中心に営業展開を行い、新規の顧客開拓を進めております。また、ASロカス株式会社と協力して両社の強みを活かした営業活動を進めました。

前期に新設した新規事業推進室では新市場、新規顧客向けの事業の検討を進め、新規の自社製品として屋外での業務に対応したタブレットシステムを企画し、デモシステムの設計に着手致しました。

消防通信指令システムに関しては、当第2四半期で工事進行基準による売上78百万円を計上しております。また、当第2四半期において2015年3月の消防通信指令システムとともに納品予定のサーバ等の付帯機器の調達を進めております。このため連結貸借対照表において流動資産の商品が前連結会計年度末に比べ192百万円増加しております。なお、工程や仕様の一部に変更があったことから損失が見込まれる案件が発生しております。このため当第2四半期において連結損益計算書に売上原価として8百万円、連結貸借対照表に25百万円の受注損失引当金を計上しております。

ACMOSソーシングサービス株式会社は、企業向けのシステム開発、運用案件が堅調に推移いたしました。病院内情報システムの運用については納期の見直しや入札条件の精査により収益性の改善を図りました。

当第2四半期のITソリューション事業の売上高は1,347百万円(前第2四半期の売上高は1,284百万円、前年同四半期比4.9%増)、営業損失104百万円(前第2四半期は営業損失97百万円)となっております。

(ITサービス事業)

株式会社エクスカルは、規格認証サービスの需要低下により厳しい事業環境が続いております。Ethernet規格に対応した電気計測サービスを新たに開始するとともに、スマートハウス向け通信プロトコルであるECHONET Lite関連のサービス展開を進めておりますが、売上の伸びは鈍く、第三者検証についても単発の案件の受注に留まっております。サービスメニューを見直して定額サービスを拡充し、テストラボとしてのサービスに限らず、アライアンスを活用した顧客企業の開発支援などを行うサービス体制の構築を進めております。

株式会社ジイズスタッフは、前期に採用した従業員の業務レベル向上と戦力化のため教育を進めるとともに、ターゲットを明確にした営業戦略により受注活動を進めました。営業体制の再構築も進めておりますが、当第2四半期で

は新規顧客の受注獲得が少なく、また新規受注案件は小規模の案件が多いことから新規案件の売上が低迷致しました。

当第2四半期のITサービス事業の売上高は165百万円(前第2四半期の売上高は205百万円、前年同四半期比19.5%減)、営業損失12百万円(前第2四半期は営業利益14百万円)となっております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

総資産は前連結会計年度末に比べ62百万円減少し、2,440百万円となりました。これは商品が192百万円、仕掛品が137百万円、ソフトウェア仮勘定が45百万円増加した一方、現金及び預金が346百万円、有形固定資産が21百万円、ソフトウェアが15百万円、のれんが29百万円減少したことが主な要因であります。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べ118百万円増加し、1,115百万円となりました。これは、未払費用が121百万円、長期借入金が27百万円減少した一方、買掛金が33百万円、短期借入金が333百万円増加したことが主な要因であります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べ181百万円減少し、1,325百万円となりました。これは四半期純損失172百万円及び配当金9百万円が主な要因であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前連結会計年度末と比較して341百万円減少し、735百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の支出は566百万円(前年同四半期は323百万円の資金の支出)となりました。これは主に資金の支出を伴わない減価償却費36百万円、のれん償却費29百万円、減損損失20百万円があった一方で、税金等調整前四半期純損失166百万円、棚卸資産の増加額329百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の支出は66百万円(前年同四半期は7百万円の収入)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出21百万円及び無形固定資産の取得による支出52百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の収入は290百万円(前年同四半期は192百万円の収入)となりました。これは主に短期借入による純収入333百万円、長期借入金の返済による支出27百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年6月期の連結業績予想の修正を行っております。詳細は平成27年2月3日付の「通期業績予想の修正及び特別損失の発生及び繰延税金資産の一部取り崩し並びに経費削減計画の実施に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,232,700	886,306
受取手形及び売掛金	484,547	482,521
商品	26,076	218,481
仕掛品	81,753	219,293
繰延税金資産	24,433	10,217
その他	68,431	54,647
流動資産合計	1,917,942	1,871,467
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	238,446	238,061
減価償却累計額	△131,144	△134,558
建物及び構築物(純額)	107,302	103,502
工具、器具及び備品	160,886	127,242
減価償却累計額	△91,499	△75,488
工具、器具及び備品(純額)	69,386	51,753
土地	68,836	68,836
有形固定資産合計	245,525	224,092
無形固定資産		
のれん	136,711	106,828
ソフトウェア	84,961	69,812
ソフトウェア仮勘定	23,636	69,366
その他	1,481	1,335
無形固定資産合計	246,791	247,343
投資その他の資産		
投資有価証券	30,943	37,607
その他	62,061	59,863
投資その他の資産合計	93,004	97,471
固定資産合計	585,321	568,907
資産合計	2,503,264	2,440,375

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	111,025	144,489
短期借入金	35,000	368,348
1年内返済予定の長期借入金	58,344	58,344
未払金	142,266	88,400
未払費用	246,841	125,444
未払法人税等	18,839	5,393
賞与引当金	16,635	23,702
受注損失引当金	34,212	25,816
その他	96,072	74,254
流動負債合計	759,237	914,195
固定負債		
長期借入金	117,755	89,833
退職給付に係る負債	75,993	78,687
繰延税金負債	28,428	22,023
その他	15,055	10,263
固定負債合計	237,232	200,807
負債合計	996,470	1,115,002
純資産の部		
株主資本		
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,176,282	1,176,282
利益剰余金	△349,445	△531,427
自己株式	△53,911	△53,911
株主資本合計	1,466,175	1,284,193
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,963	12,749
その他の包括利益累計額合計	8,963	12,749
少数株主持分	31,655	28,429
純資産合計	1,506,794	1,325,372
負債純資産合計	2,503,264	2,440,375

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
売上高	1,452,419	1,466,064
売上原価	1,099,537	1,095,219
売上総利益	352,881	370,844
販売費及び一般管理費	456,287	516,747
営業損失(△)	△103,406	△145,902
営業外収益		
受取利息及び配当金	532	427
保険配当金	3,334	3,358
その他	1,024	2,227
営業外収益合計	4,890	6,012
営業外費用		
支払利息	2,503	2,934
その他	26	113
営業外費用合計	2,530	3,047
経常損失(△)	△101,045	△142,937
特別利益		
子会社株式売却益	4,562	—
特別利益合計	4,562	—
特別損失		
固定資産除却損	96	491
特別退職金	2,457	—
事務所移転費用	—	1,400
リース解約損	—	1,504
減損損失	—	20,529
特別損失合計	2,553	23,926
税金等調整前四半期純損失(△)	△99,036	△166,863
法人税、住民税及び事業税	5,777	2,569
法人税等調整額	51	5,714
法人税等合計	5,828	8,283
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△104,865	△175,147
少数株主損失(△)	△6,067	△2,865
四半期純損失(△)	△98,797	△172,282

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△104,865	△175,147
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,512	3,786
その他の包括利益合計	3,512	3,786
四半期包括利益	△101,353	△171,361
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△95,285	△168,496
少数株主に係る四半期包括利益	△6,067	△2,865

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△99,036	△166,863
減価償却費	31,668	36,004
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△549	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	13,998	7,067
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,193	—
受注損失引当金の増減額(△は減少)	—	△8,395
のれん償却額	29,882	29,882
固定資産除却損	96	491
減損損失	—	20,529
受取利息及び受取配当金	△532	△427
支払利息	2,503	2,934
子会社株式売却損益(△は益)	△4,562	—
売上債権の増減額(△は増加)	△56,235	△37,842
たな卸資産の増減額(△は増加)	△182,593	△329,961
仕入債務の増減額(△は減少)	27,288	33,223
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	2,693
その他	△80,208	△137,309
小計	△315,084	△547,972
利息及び配当金の受取額	533	428
利息の支払額	△2,320	△3,406
法人税等の支払額	△6,624	△15,267
営業活動によるキャッシュ・フロー	△323,497	△566,217
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	14,800	4,794
有形固定資産の取得による支出	△19,598	△21,165
無形固定資産の取得による支出	△23,966	△52,551
子会社株式の売却による収入	35,268	—
その他	1,106	2,872
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,609	△66,050
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	143,337	333,348
長期借入れによる収入	100,000	—
長期借入金の返済による支出	△36,395	△27,922
配当金の支払額	△9,699	△10,408
その他	△4,348	△4,348
財務活動によるキャッシュ・フロー	192,893	290,668
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△122,994	△341,599
現金及び現金同等物の期首残高	996,390	1,077,179
現金及び現金同等物の四半期末残高	873,396	735,579

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)	合計
	ITソリューション事業	ITサービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,247,263	205,155	1,452,419	—	1,452,419
セグメント間の内部売上高又は振替高	37,632	—	37,632	△37,632	—
計	1,284,895	205,155	1,490,051	△37,632	1,452,419
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△97,316	14,801	△82,515	△20,890	△103,406

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△20,890千円には、報告セグメントに配分していない全社費用△20,948千円、その他の調整額58千円を含んでおります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社本社の上場維持に係る費用等であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年7月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)	合計
	ITソリューション事業	ITサービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,300,925	165,139	1,466,064	—	1,466,064
セグメント間の内部売上高又は振替高	46,840	—	46,840	△46,840	—
計	1,347,765	165,139	1,512,904	△46,840	1,466,064
セグメント損失(△)	△104,999	△12,761	△117,761	△28,141	△145,902

(注) 1 セグメント損失(△)の調整額△28,141千円には、報告セグメントに配分していない全社費用△21,118千円、未実現利益消去△7,439千円、その他の調整額416千円を含んでおります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社本社の上場維持に係る費用等であります。

2 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ITサービス事業」セグメントにおいて、事業活動から生ずる損益が継続してマイナスであるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては20百万円であります。